

【レポート】第21回あきた Get-one ビジネスチャンス交流セミナー（東海林輸宣氏）

2020年10月19日

21回目となる今回のあきた Get-one ビジネス交流セミナーでは、株式会社 See Visions の東海林輸宣氏にお越しいただきました！

秋田駅からわずか徒歩17分、ここ10年でかつてない新たな活気で賑わいを見せる亀の町。

その秘密は、東海林さんの仕掛けた「エリアリノベーション」にありました。



学生から経営者まで幅広い層の集う会場。刺激に満ちたセミナーの開幕です！

## 生い立ちと「亀の町プロジェクト」のきっかけ

秋田県美郷町出身の東海林さんは、大学進学を機に上京し、グラフィックデザインをはじめとした様々なスキルを身に着けた後、再び秋田へ。しかし、そこで秋田の問題に直面します。秋田は人口減少などいくつもの課題を抱えており、それに危機感を感じた東海林さん。それと同時に、この「衰退の時代」に伴い、アイデアやデザイン

といった「クリエイティブ」な発想が求められる時代に変わりつつあると感じたと言います。

そんな中、自分に何ができるか模索し 2006 年には会社を立ち上げることになりました。最初は一人だったものの、今では 30 人規模にまで成長していきました。

そしてついに、亀の町を地元の人が気軽に使える・集まれる場所にしようという「亀の町プロジェクト」が始まります。

## 新たな店舗が続々と

東海林さんが秋田に戻ってきた時、ここ「亀の町」にどこか寂しさを感じたそうです。人気が少ない、夜は真っ暗。閉店しているお店も多い。でも、だからこそ面白い店舗が増えれば町自体が楽しくなるだろうと考えをシフトしていきます。

そこで東海林さん自身もまたグラフィックデザインを学んでいたこともあり、亀の町のリノベーションへと動き出しました。

リノベーションの中でも、東海林さんならではの発想が「店舗単体ではなく、エリアとして複数店舗をリノベーションする」ということ。近くに様々な魅力のある店舗を配置することで、そのお店だけでなく他のお店も回りやすいようにしてより一層の活気を期待したそうです。

もともと活気がなかったうえに、補助金も出ず建物もボロボロ。そのため、自分たちが主体となって出店してくださる方を募っていきました。

そして、初めて動きがあったのは 2013 年。初期費用を抑えるためにも敢えて壁などもむき出しにしながら、おしゃれな雰囲気を出そうデザインしていきました。開店すると多くの人が行き交うようになり、若い人も気軽に来れる場所に。

そして酒場はカウンターで会った初対面の方などと自分たちの持っているスキルや夢を語り合う、新たな拠点へとなくなっていったのです。

しかし、亀の町プロジェクトの本当のすごさは、これからなんです。



実際に経験して痛感した、数々の苦勞。説明にも熱が入ります！

## オーナー説得の苦難と亀の町ストアの完成

さらなるエリアリノベーションを展開すべく、次に注目したのがヤマキウビルでした。ここではPR、そしてリノベーションのアピールとして絶好の場所。しかしながら、オーナーさんに交渉しようとしたものの、話すら聞いてもらえず苦勞したと言います。

今では大盛況のヤマキウビルですが、実はオーナーの息子さんへのプレゼンを通し、ビルを壊さず改修して使う、入居者を100%決めてから工事に取り掛かるなど必死に工夫を繰り返し、そしてついに今まで頑なに断り続けてきたオーナーさんの説得に成功した、そんな経緯もあったのです。

半年間の工事を経て、2015年には「亀の町ストア」がオープン。1階にコーヒースタンドやデリを設置した他トークイベントなどの開催も行われ、今では若い人からご高齢の方まで、幅広い近隣住民を中心に交流の場所となっています。

「昔賑わっていた頃のヤマキウビルの光景をまた見てみたかった」とも語るオーナーの小玉康明さん。その想いが今、新たな形で広がっているとも言えるのかもしれませんが。

## 亀の町のさらなる展開と「これから」

さらに新規店舗を設けながら、いよいよ大規模なリノベーション事業が持ち上がりました。

それが、600坪(うち倉庫面積200坪×2軒)の土地を活用した複合施設の展開です。

1階と中2階(1階と2階の間)を商業施設、2階をコワーキングスペースとして活用することでより様々な人が利用できる施設を目指したそうです。中央にはベンチを設置したスペースがあり、“公園”のように気軽に立ち寄れ、思い思いの時間を過ごせる空間に。

今まで暗く使われることもなかった倉庫が、今ではリノベーションを通して賑やかな交流の場所へと大きな変貌を遂げました。なんと、ここ『ヤマキウ南倉庫』はRENOVATION OF THE YEAR2019 審査員特別賞(ブロンズ)も受賞しています。

「時代に合わせて形を変えていくのがリノベーションだと思う」

「スタートのコツは『100のいいねより、10の超いいね!』」

「これからの時代は、今までの『計画→建設→入居者募集』ではなく『先に入居者を100%にする→それに合った環境を創る→事業を行っていく』ことでリスクを最小限にしていくアプローチが重要になってくるだろう。そして、自分たちはオーナーの代わりに話を聞いたりいさかいを仲介するような現代版『家守』になりたい。初めに誰かが投資して利益を回収し、その利益で新規事業・プレイヤーを増やしていく好循環を生み出していきたい」

と経験豊かな東海林さんだからこそその壮大な夢も語っていただけました。

“クリエイティブ”なリノベーションを通し、点と点を面にしてまち全体の価値を高めていく。

この魅力に惹かれ入居を決めた方も多く、「エリアリノベーション」という手法は全国でも注目を集めています。

一体次は亀の町にどのようなお店が誕生していくのか、これからも楽しみですね！



全国から注目を集めるエリアリノベーション。

次は一体どんなチャレンジを仕掛けていくのか、これからも目が離せません！！

## 〔番外編〕 振り返りワークショップ(学生限定)

東海林さんのご講演の後は、学生を対象にした振り返りワークショップが行われました。

インプットだけでなくアウトプットも大事。セミナーで知ったことを直後にアウトプットしていくことで、より効果的に次の行動へと繋げていきます。

“リノベーション”や“クリエイティブ”といったセミナーのキーワード、そして中には“補助金の申請”と、自らの体験と結びつけた意見なども活発に飛び交いました。

学生なりに何ができるかを模索する。果たして秋田で何が起こっていくのか、もしかしたらそのきっかけになるかもしれません！

最後までご覧いただき、ありがとうございました！

中林遼太郎